

免疫のお話『予防接種』編



そもそも免疫とは

免疫とは、自分を守るために働く体の機能のことです。細菌やウイルスなどの病原体が体内に入ると、体はそれを「抗原」と認識し、抗原に対する「抗体」を作って、病原体が体の中で増えるのを抑えます。その後、一部の抗体が体内に残ることで、また同じ病原体が侵入してきたとき素早く対応できるようになります。これが免疫の仕組みです。

病原体のことを「抗原」といいます

病原体
(細菌、ウイルスなど)

抗体

免疫がつく!

初めての感染

→ 抗体ができるまで時間がかかるので、感染による症状が現れます。

2回目以降の感染

→ 抗体が素早く対応するため、病原体はすぐに退治されます。

この免疫の仕組みを利用して
病気を予防するのが
「ワクチン」です。

予防接種

ワクチン

(病原体の毒性を弱めたり、
無毒化したもの)

ワクチンを接種

免疫がつく!

免疫がついた後は、その病原体に
感染しないか、感染しても無症状
または軽症で済みます!

インフルエンザワクチンのQ&A

そろそろインフルエンザが流行する季節になります。インフルエンザの予防接種は毎年受けていますか? インフルエンザワクチンについて、よくある質問を紹介します。



Q. インフルエンザワクチンの効果的な接種時期は?

A. ワクチンを接種してから抗体ができるまで、2~3週間かかります。インフルエンザが流行し始めるのは例年12月なので、11月中頃までに接種を済ませましょう。

Q. インフルエンザワクチンの免疫(効果)はどれくらい続く?

A. 免疫(効果)が期待できるのは接種後、約5ヶ月までです。そのため、インフルエンザワクチンは毎年打つ必要があります。

Q. インフルエンザワクチンの接種によって引き起こされる症状(副反応)にはどのようなものがある?

A. 接種した部位の赤み・腫れ・痛みや、発熱、頭痛、さむけ、だるさなどが見られることがあります。これらの症状は2~3日で消失するため、特別に処置をする必要はありません。まれに、ワクチンに対するアレルギー反応が見られることもあります。

重大な副反応は、接種後30分以内に起こるので、その間は医療機関にとどまるなど、医師とすぐに連絡がとれるようにしましょう。

参考: アステラス製薬「だから、予防接種」、
一般社団法人 日本ワクチン産業協会「予防接種に関するQ&A集」

《出張相談会 保健室に薬剤師が来ます》
おくすりナビ、医薬品や健康などについて、質問・相談がある人は保健室まで!
11月20日 午後4時00分~4時30分

作成・発行元 北陸大学薬学部 准教授(薬剤師) 大柳賀津夫
北陸大学薬学部薬学科5年生 喜友名侑舞・仲田里穂